

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	医療福祉経営学分野
学籍番号	14S3039	院生氏名	田口 有里恵
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	The Economic Effects of Reduced Drinking among High-risk Drinkers in Japan (我が国の高リスク飲酒者に対する飲酒量低減治療の経済効果)		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>健康政策「健康日本 21」では、高リスク飲酒者の減少に向けた取り組みの重要性が示唆されている。本研究は、近年のデータを用いた国内の飲酒に関する疾病費用と高リスク飲酒者の飲酒量低減の経済効果、及びブリーフ・インターベンション (SBI) の費用対効果について考察した。</p> <p>直近 10 年 (2005 年～2014 年) の文献システマティックレビューから研究手法を分析したのち、本研究実施時の最新データである 2012 年国内内科診療医療費データから飲酒に関する疾病費用を推計した。次に、目標通り飲酒量低減を実現した際の経済効果を推計した。SBI については、文献システマティックレビューで実施方法を調査したのち、4 つの SBI 実施シナリオを設定し実現可能性が高く費用対効果の良い SBI について考察した。この際、文献から入手できない SBI の準備・実施費用等の情報収集をするため、2015 年 3 月～4 月にアルコール依存症及び使用障害の治療に携わる国内医師 5 名に半構造化インタビューを実施した。</p> <p>飲酒に関する疾病費用は先行研究の約 1.5 倍、飲酒量低減による経済効果は最大で約 3.6 千億円と推計された。SBI については、医師による介入後、次の来院予定日までの間にその他の医療従事者による電話等でのフォローアップが行われた場合、飲酒量低減の達成率がより高くなること、非介入に比べて費用対効果が良好であることが明らかとなった。</p> <p>本研究計画は、国際医療福祉大学研究倫理審査にて承認され、本研究実施時の筆者所属企業及び情報提供者から事前に了承も得て実施された。</p> <p>本研究の新規性は、アルコール依存症の治療に携わる医師に半構造化インタビューを実施し、文献から入手できない情報を収集することで SBI の費用対効果に関する新しい知見を得ていることであり、高リスク飲酒者の減少に向けた取り組みに貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>審査会は 2 回開催し、口頭試問において適切に応答するとともに、初回審査で論文の修正を求めた箇所も適切に修正された。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (医療福祉経営学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 齋藤 恵一</p> <p>副 査 安部 和彦</p> <p>副 査 小川 俊夫</p>		